

社会的責任に関する円卓会議 第4回地球規模WG会合 議事要旨

日時：2010年10月18日（月） 15時30分~18時30分

場所：総評会館3階 連合B会議室

出席者：

【WG関係者】

労働組合

鈴木 宏二 日本労働組合総連合会

曾根崎 義治 日本労働組合総連合会

消費者団体

高橋 怜一 日本生活協同組合連合会

菅 いづみ 全国消費者団体連絡会

金融セクター

金井 司 住友信託銀行

政府

小町 僚明 経済産業省 \*

中嶋 健次 内閣府

川島 悟一 内閣府 \*

専門家

渡辺 龍也 東京経済大学

NPO/NGO

小松 豊明 特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会

開澤 真一郎 特定非営利活動法人 NICE（ナイス=日本国際ワークキャンプセンター）

堀江 良彰 特定非営利活動法人 難民を助ける会

吉澤 有紀 特定非営利活動法人 難民を助ける会

平田 裕 環境パートナーシップ会議（EPC）\*

宮下 恵 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター（JANIC）

岩附 由香 特定非営利活動法人 ACE

植木 美穂 特定非営利活動法人 ACE

\*：オブザーバー、代理出席

【関係協力者】

佐藤 正弘 地球サミット2012Japan 準備事務局

## 1. 自己紹介

## 2. 前回議事録の確認

- ・基調講演ではソニー株式会社富田様をお招きして ISO26000 について学んだ。
- ・連合、経済産業省、外務省、経団連自然保護協議会から、協働事例や組織の課題への取り組み、関連最新情報の発表があった。
- ・内閣府からの共有

## 3. 消費者グループからの活動共有

- ・前 2 回の事例発表で共有が出来なかったので、認識共有のため活動内容を共有する。

○発表者：全国消費者団体連絡会 菅いづみ

(資料：消費者セクター 事例報告)

- ・組織ごとに環境分野を中心に様々な活動を行っている。
- ・WG 関連事項として、グリーンコンシューマーシリーズ「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている」の小冊子を発行している。

○発表者：日本生活協同組合連合会 高橋怜一

(資料：2008 年度日本生協連国際活動委員会報告書、『生協の社会的取り組み報告書 2010』)

- ・貧困／開発、環境の分野でそれぞれ以下のような活動を行っている。

<貧困／開発>

- ・ユニセフと協力した募金活動を 30 年ほど実施している。
- ・フェアトレードのバナナを中心に展開する生協が増えている。
- ・人材育成、平和等のテーマにも各団体と協力して取り組んでいる。
- ・最近の活動としてはユニセフ(アンゴラへ学校を設立等)や WFP への支援を行っている。

<環境>

- ・サンゴ礁再生事業、農業との活動等を展開している。

## 4. 幹事グループからの提案

### ①ワーキング委員の追加について

- ・渡辺龍也氏(東京経済大学)に新ワーキング委員(専門家)としてご参加いただきたい。  
…活動の経緯：JANIC、NGO と外務省の定期協議会立ち上げ、コペンハーゲンサミットへの参加、(特活) JVC ラオス駐在等。  
→全会一致でワーキング委員に承認。  
→手続き：部会長への報告をし、正式にワーキング委員となる。

### ②「地球サミット」に向けた取り組みについて

- ・本 WG を地球サミット 2012 アースフォーラムと連動させていく案が挙がっている。ア

スフォーラムはマルチステークホルダープロセスによる枠組みを想定しているが、既に円卓会議でその枠組みが存在しているので、うまく活かしていければという狙い。まず関係者から情報共有をいただく。

○発表者：地球サミット 2012Japan 準備事務局 佐藤正弘様

(資料：アースフォーラム について (素案))

<経緯説明>

- ・佐藤氏は昨年まで内閣府の職員として円卓会議の立ち上げに関わってきた。
- ・現在は金融庁に勤めており、地球サミット 2012Japan 事務局として有志で集まりステークホルダーへの声かけを進めている。

<地球サミット 2012 について>

- ・2012年にリオデジャネイロで地球サミットが開催される予定。
- ・2010年5月に国連委員会が開かれ、地球サミット 2012の暫定的議題が決定している。
  - …目的： 持続可能な発展への政治的コミットメントの確保  
国際的に合意されたコミットメントの進捗評価  
新たに現れた課題への対応
  - …テーマ： 貧困撲滅と持続可能な発展の文脈におけるグリーンエコノミー  
持続可能な発展のための制度枠組み

<アースフォーラムについて>

○アースフォーラム設立の意義

- ・1992年、リオ開催の地球サミットで採択された「アジェンダ 21」にマルチステークホルダープロセスの重要性が掲げられている。
- ・国連事務局文書(2010年5月)より、国内準備委員会の形成と課題検討への着手が掲げられている。
- ・2011年のアースデーで全ステークホルダー合意のもと発信を開始していくことを想定している。
- ・ローカル、各個人、各組織による取り組みは広がっているので、それらを世界へ発信していくことを考えている。
- ・設置目的
  - 1 地球サミットに際し日本が世界に発信するコンテンツを検討
  - 2 地球サミットの開催時期に合わせ、様々な主体による課題解決に向けた取り組みを促進
  - 3 地球サミットの開催時期に合わせ、地球規模の課題に関する、広範な社会層の関心を喚起

<質疑応答>

(質問者：WG 委員 回答者：佐藤氏)

○開催時期

- ・2012年5月16日に首脳会議が開催される予定。

- ・上記1週間前後に地球サミットが行われる予定。
- 事務局担当
  - ・新たな法人化組織、または特定の組織に担当していただく想定。
  - ・円卓会議は事務局ではなく運営委員会として参加いただきたい。
- 予算
  - ・政府との議論の中で検討していきたい。
  - ・皆で支えるという意味では寄付金や出資金で運営することも可能性としてはある。
- 地球サミット 2012 日本事務局（有志団体）の位置づけ
  - ・立ち上げの呼びかけ人。アースフォーラム設立後は、適切な組織／人に担っていただきたい。
- 地球サミット 2012 に向けた動き
  - ・日本国内ではまだ主立った動きはない。
  - ・海外では、グリーンコンシューマー・コアリーションが設立されている。
  - ・アジアではユースが活発に活動を始めている。
- 政府代表としていく省庁
  - ・様々な省庁が赴き、最終的には総理大臣が参加する予定。
- アクションとフォーラムの関係(地球サミット2012に対するアクションを認証する場合、限定的に展開するのか、広く開いて応募するのか)
  - ・様々なものが地球サミットに向けて動いていることを見せていきたいので、限定的に扱うことはせず広く開いていく想定。
  - ・ESD等、特に日本から世界へ届けたいものはアースフォーラムから世界へ発信していく。

## 5. 骨子案とアースフォーラムへの関与についての検討

(資料：2010/9/29 運営会資料 行動計画の骨格・フォーマット、行動計画骨子案)

- ・各分野の成果目標を、課題毎に各セクターに提案してきていただいた。

<ワーキンググループの機能について：認識共有>

- ・ワーキンググループの主な機能は、行動計画の策定。その後の活動（計画の実施）については、必ずしもワーキンググループとして活動しなくてもよいということがわかった。その後の展開については各ワーキンググループの意思に任されているので、併せて検討していきたい（主査）。
- ・課題の解決が主目的なので、枠組みを前提として考えなくてよい。マルチステークホルダープロセスは日本で初めての取り組みなので、各ワーキンググループで試行錯誤しながらやっていければよいと考えている（内閣府）。

<意見交換>

○各セクターからのコメント（骨子の表記等）

- ・労働組合としては持続可能な発展という意味で日本の労働についても取り組んでいきたいと考えている（労働組合）。→（案）「取り組むべき課題」の中で触れる、「各ステークホルダー／主体の行動」の中に盛り込む。
- ・分野別に各セクターの取り組みをまとめると、分野によっては行動が書けない部分が出てくる。もう少し大きな枠組みでまとめる、また協働プロジェクトとして目指す成果目標を提示するという形で対応してはどうか（消費者団体）。
- ・行動計画の中に、なぜ取り組むのかの位置づけを明示する必要がある。
- ・各課題をとりまとめる横串の存在が必要。
  - …人権、難民、HIV/AIDS等の個別課題もあり、その表記も検討が必要（NPO/NGO）
    - 分野はあまり広げると收拾がつかなくなるので、拡散の方向で議論はしない方がよいだろう（NPO/NGO）
- ・持続可能な社会を考えた時、大きく分けると「貧困格差」と「環境」に分類される。今提示されている課題は貧困と環境の各項目4種類ずつで、うまく分かれているといえる。ジェンダーの視点は出ていないので、反映させる必要があるかと思う（専門家）
- ・何のためにこの課題に取り組むかの意味付けは各セクターによって異なり、例えば事業者の場合はCSRの枠組みで取り組むには限界がある。ワーキンググループ内でその目的のすり合わせが必要なので、議論すべき（金融）
- ・具体的な活動も骨子に入れ込んだ方がよい（内閣府）

○地球サミット／アースフォーラムとの関わり

- ・円卓会議におけるアースフォーラムの位置づけ<佐藤氏からの共有>
  - …円卓会議によって生まれるが、アースフォーラムそのものではない。地球サミットは国連の枠組みで行われており、総理が日本のコンテンツを持っていくもの。
  - …円卓会議には政府から資金拠出があまりされていないが、アースフォーラムは適切な予算が充当されるものになるだろうと想定している。
  - …アースフォーラムにおいても、ワーキンググループで議論している個別課題への協働が重要。ワーキンググループでコンテンツ作りをしていていただきたい。
- ・地球規模課題ワーキンググループは、アースフォーラムを生み出すことが機能。実施運営体制はまた別に機能されるので、協働プロジェクトにした方がその後の運営が進めやすいだろうと考えている（主査）。
- ・現在挙がっている骨子案では、本ワーキンググループと地球サミットが深く連動している。地球サミット（アースフォーラム）とワーキンググループの関係性の検討と共通理解の醸成が必要（労働組合）。
- ・地球規模課題のワーキンググループとして目指すものがまず前提としてあり、アースフォーラムはあくまで方法論。総論と各論を分けて論じる必要がある（金融）。

- ・マルチステークホルダープロセスを活かすという意味で円卓会議は適切だが、アースフォーラムの事務局をワーキンググループで担うとなると重みが全く異なってくる。その認識をした上で検討する必要がある（金融）。
- ・地球規模課題ワーキングとしてアースフォーラムを活用することはよい。ただ、ワーキンググループ自体がアースフォーラムの設立を主目的として立ちあがったわけではなく、課題の解決であることを骨子の冒頭で示すべき。協働事例の一つとして活用し、取り組んでいくことが一つのアウトプットになるのでは（経済産業省）
- ・8分野については、個別具体的な例としてまずこれらに取り組む、という形で進めていくのであればよいと思う（経済産業省）
- ・手法としてアースフォーラムに関与していくのは良いと思う（内閣府）
- ・協働プロジェクトとして位置付けることに賛成（金融）
- ・アースフォーラムは2012年の期限付きの枠組みなので、これと一体化するとワーキンググループとして少し支障が生じてくる可能性がある。アースフォーラムとは別に、ワーキンググループとしての取り組みや方針を定めた方がよいのでは（NPO/NGO）

#### ○行動計画骨子の修正点

- ・ワーキンググループが地球規模課題になぜ取り組むのかの課題設定文章を冒頭に入れ込む（趣意書の文章を活用する）
- ・骨子案1と2を統合する。
- ・アースフォーラムへは手段及び協働を促進する場として関与していくことを記載する。

## 6. 各課題の成果目標案の共有・議論

- ・各セクターに8分野の成果目標について素案を出していただいたので、共有の上議論していきたい。

（資料：素案提起シート／7種）

#### <各分野の提案>

##### ○フェアトレード（シャプラニール）

- ・フェアトレードの普及・推進
- ・成果（2013）：フェアトレードタウンの実現、市場規模の拡大と認知度の向上  
…フェアトレードタウンは促進に向けて自治体も交えて議論するなど具体的に動いている（熊本、名古屋、札幌など）。取り組みは各町に委ねられているので、指標としてどこまで関与するかは議論が必要。
- ・各主体の行動：アイデアレベルのものを記載している。各セクターから意見をいただき議論していければ。

##### ○児童労働（ACE）

- ・成果（2013）：児童労働問題の各セクターの認知度向上、児童労働撤廃・予防に寄与する

#### 取り組みの増加

- ・成果（中期）：2014年 ILO 発表の統計を判断指標とする想定。

#### ○BOP（経済産業省）

- ・BOP ビジネスの促進（根底にある各課題の解決に関する指標はここではあえて明示していない）

…BOP ビジネスに取り組む日本企業は欧米に比べ少なく、某新聞社によると 20 社程度と言われている。まず取り組むことの促進を経産省としても昨年から取り組んでおり、本ワーキンググループの活動でもそれを目指していきたい。

- ・成果（2013）：BOP ビジネスへの取組の促進（→取組の増加、に修正）

#### ○MDGs（JANIC）

・貧困・開発分野は環境に比べ認知度が低い。ここでは MDGs そのものではなく日本国内における認知度に指標の焦点を当てている。

・成果（2013）：各セクターの賛同と理解促進、キャンペーン参加セクター増加、学校教育での開発教育活発化

- ・成果（中期）：日本社会で MDGs の知名度向上

#### ○森林（NICE）

- ・森林の再生

・成果（2013）：植林 10 万本（世界）、間伐 1 万本（国内）、他

・成果（2013）：世界の森林率上昇、木材自給率の上昇、他

※全分野に共通しているが、この活動による（本質的）成果というのは測りにくい。

#### ○低炭素社会の実現（EPC）

・成果（2013）：京都議定書に代わる新たな国際枠組みを作り、世界的な取り組みを強化する。

・成果（中期）：各国が 2050 年までに少なくとも 50%を削減、早急な温暖化対策を施策・実施する。

#### ○生物多様性の保全（EPC）

・成果（2013）：2020 年までに生物多様性の損失を止めるためのロードマップ作り

・成果（中期）：各セクターによる具体的な行動の実施（一般認知度の増加 4 割→7 割）

#### ○水（NICE）

※議論が必要な段階なので、今回は提供資料なし。

#### <意見交換、議論>

#### ○骨子への書き方について

・8 分野は多いので絞らないと活動していけないのではないかと。また各成果が壮大な目標を掲げているので、どのレベルまで提案して良いのか議論の必要がある。

・8 分野に分かれているが、全て切り離せないテーマになっている。まとめ方として、分野

毎に分けるのではなく貧困／開発と環境の 2 分類にして、その中で各分野について言及してはどうか。

- ・「成果目標」ではなく「各主体の行動」の欄に 8 分野についての具体的な活動を書くという形が適切ではないか。

#### ○成果目標の検討

- ・成果目標の設定から入るのではなく、まずは各主体の行動を検討するのがよいのでは。各主体が協働することでより大きな成果を生み出せるかどうかを見極め、それを成果指標として掲げていく、という順序で考えることで円卓会議の特性を生かした新たなものが生み出せるのでは（内閣府）
- ・まず全体としての目標を掲げ、活動や分野は各セクターが選択して行動するのがよいのではないか（NPO/NGO）
- ・数値目標を掲げるならば、評価することが必要。誰がどのように測るのか（NPO/NGO）  
→各協働の裨益者などで成果を測ることも考えられるが、正確に測るのは難しい。指標設定の仕方によっては測定も可能では（主査）。  
→他の外部要因も多数存在するので、ワーキンググループのアクションによって得られた成果かどうかの相関性を測るのは極めて困難（専門家）
- ・BOP ビジネスについては、円卓会議で協働を全てプロデュースしフォローする場合でなければ測定は困難。企業と現地に win-win な形での実現の普及啓発を企業に対して行っているため、各プロジェクトによる成果（裨益者）を測定するのは難しい（経済産業省）。
- ・啓発ならば、知った人数という間接的な成果ならば測定は可能（主査）。
- ・具体的行動は検討中とし削除する、主体間の協働した取り組みは残す、成果目標はもう少し削り表現を緩やかにして校正する、という形で提出してはどうか。
- ・上記を表としてまとめるのがよいのでは。

→合意

### 7. 骨子案についてまとめの協議

<総合戦略部会・運営委員会の合同会議について（10/21）>

#### ○情報共有とコメント（内閣府 川島氏より）

- ・素案提起シートを参考資料として提示することは可能か（主査）。  
→可能。
- ・運営会、総合戦略部会でご意見をいただいて、後日ワーキンググループへ戻して議論することは可能か（主査）。  
→可能。
- ・会議に提出する骨子案は必ずしもワーキンググループの合意がとれたものである必要はなく、前提を明確にすれば主査による文章でも可能。



- ・本会議の意図は、各グループの具体的な動きを知ることにある。
- ・重点が置かれているのは、各主体の行動よりも主体間の協働。
- ・何が協働できるかの検討に時間を割いた方がよい。

#### ○意見交換

- ・第2回と第3回の会合で学習会をし、勉強しながら作っていきこうという段階でいきなり定量的な目標の議論をしている。そこに根本的な問題がある。
- ・目標が明確に決まっていない状況で各主体の行動を議論することに違和感がある。
- ・事業者はまだ本会合へ出席しておらず、その段階で数値目標や主体の行動提示することには抵抗がある。書面として出したら、検討中という前提を共有したうえで示してもそれなりの認識や拒否反応が出てきてしまう。
- ・ワーキンググループでの議論を経ていない資料（成果目標の素案）を、参考資料として出すことはないのではないか。
- ・一方で、成果目標の素案を具体例として示すことで、フェアトレードタウンのように分野毎にこうした定量的な目標があるのだという気付きを与えることはできる。

#### ⇒（決定事項）

- ・会議では検討中であるという前提のもと報告をする。
- ・骨子は本日議論されたものをあくまで例として表記する。
- ・各分野の素案提起シートの一部を抜粋したものを参考資料として提示し、ご意見をいただく。
- ・アースフォーラムは協働プロジェクトの枠組みで取り組んでいく方針だをご報告する。

## 8. 今後のスケジュールとタスクの確認

### <スケジュール>

※円卓会議としての骨子案提出締切は10月20日12時。

※素案の提出締切は、次回（10/21）の総合戦略部会／運営会で決定する。

- ・10/21 総合戦略部会・運営委員会への提出資料
  - …骨子：10/19AMまでにMLで共有する（岩附）
  - …素案提起シート：10/20AM8:00までにMLで共有（シャプラニール）
  - …各セクター：10/20AMまでに上記2点を確認し、検討のコメントを共有する。
- ・行動計画の集約
  - …8分野の素案提起シートに対し、各セクターからコメントを出し集約する。
  - フォーマットの作成と共有（締切10/30：AAR）
  - 素案提起シート原案へのフィードバック（締切11/22：entaku@acejapan.org宛）
  - 上記フィードバックを統合したファイルの作成・共有（締切12/1：ACE）

→12月10日の第5回地球規模課題ワーキンググループ会合で検討

<各セクターのタスク>

□10/21 総合戦略部会・運営委員会への提出資料（骨子、素案提起シート）を確認し、コメントを共有する（締切：10/20AM）

□素案提起シート原案へフィードバックのコメント（締切：11/22）

<次回会合>

2010年12月10日（金） 15時30分~18時00分

主婦会館プラザエフ 5F 第2会議室にて（最寄駅：四ツ谷）

以上